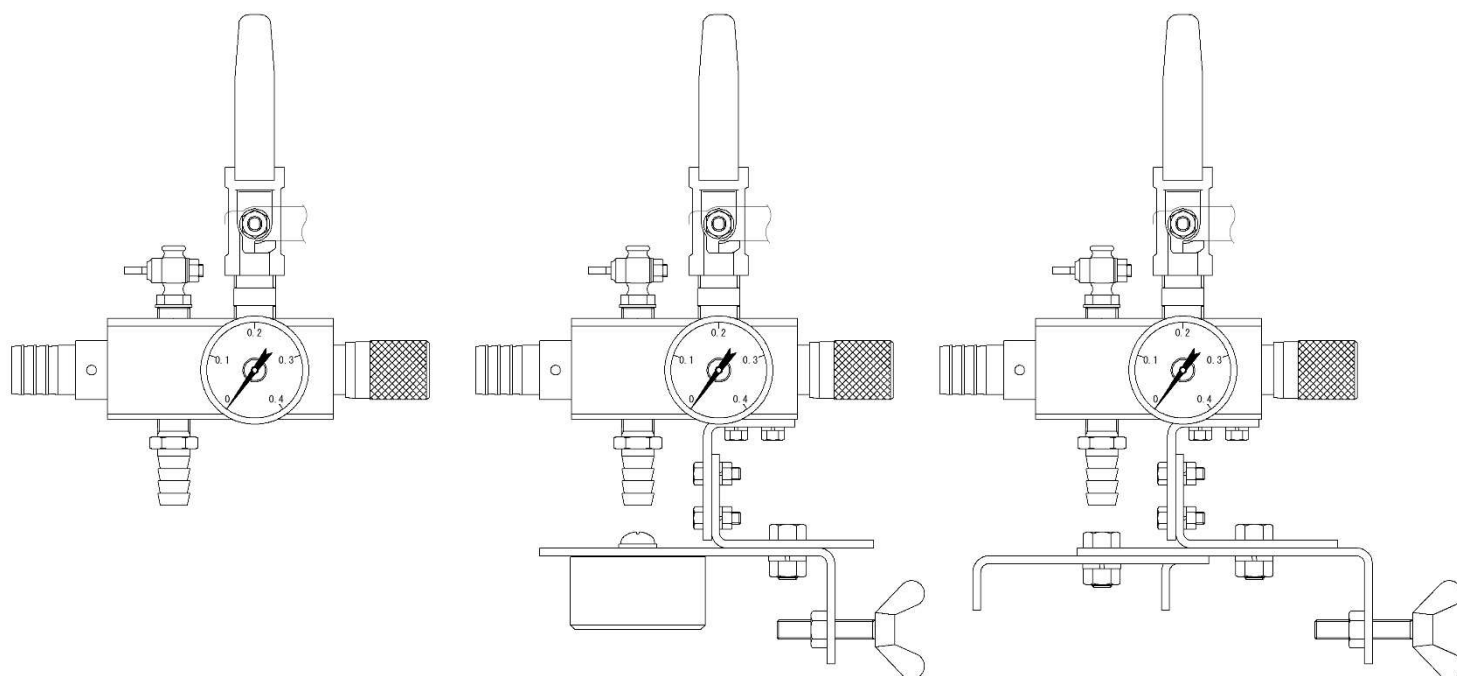


自動希釈バルブ KS-ADV2 / 2S / 2D

取扱説明書



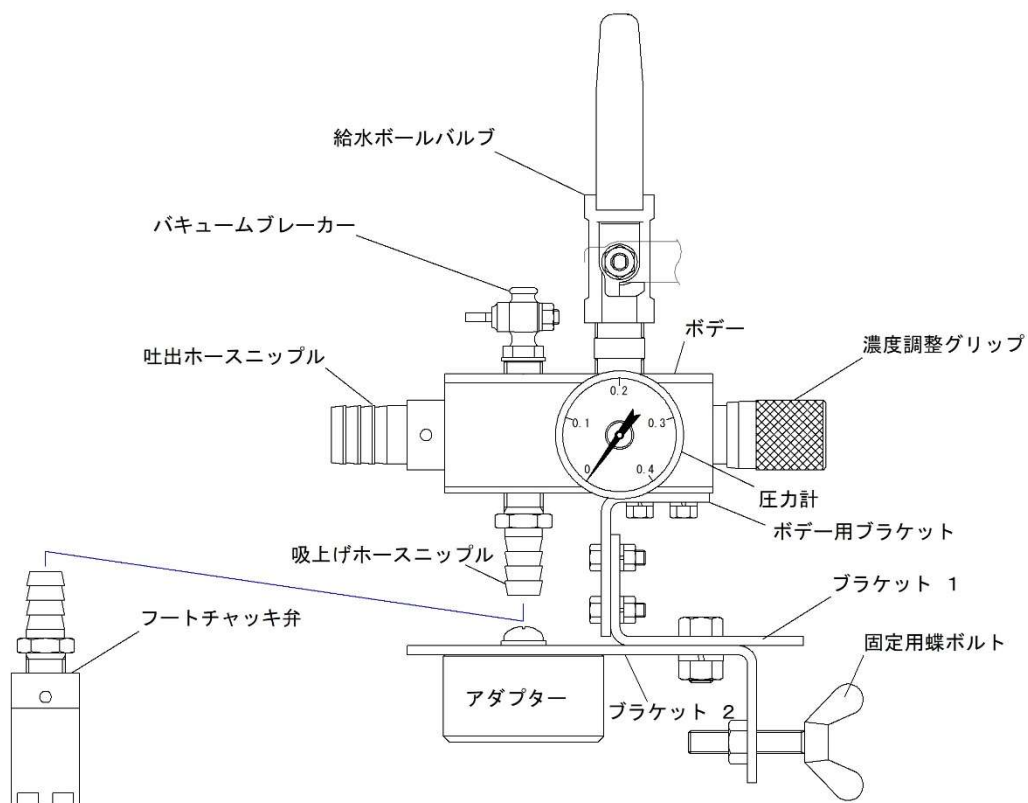
目次

外形図及び部品	2
その他の付属品	2
取り付けかた	3
取り付け参考図	4
操作のしかた	5
ブラケットの取り付けかた	5
KS-ADV2 の取り付けかた	7
トラブルシューティング	8

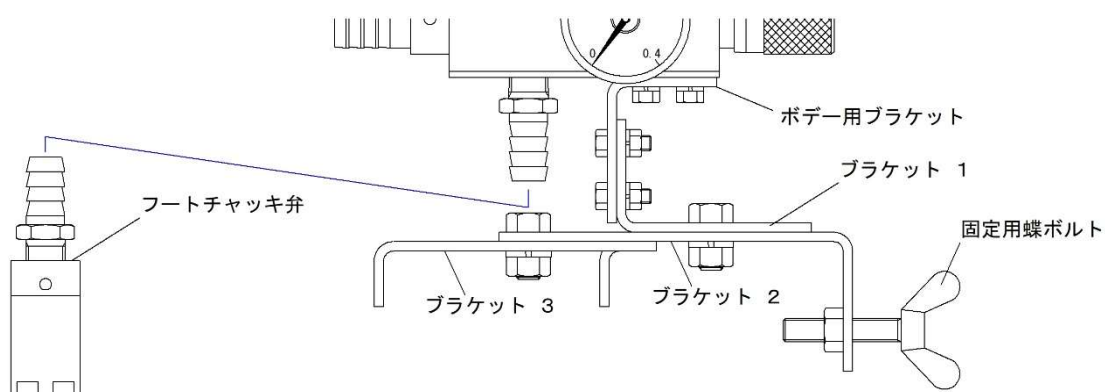


株式会社ケイエステック

外形図及び部品



KS-ADV2S



KS-ADV2D

その他の付属品

1. プレートホース	19mm	(放出用)	2m	4. ホースバンド	S/20~32	(放出用)	1 ケ
2. プレートホース	12mm	(吸上用)	2m	5. ホースバンド	S/12~20	(吸上用)	2 ケ
3. フートチャッキ弁			1 ケ				

取り付けかた

1. 吸上げホース（12mm）の一方にフート弁を取付け、他の一方をアダプターに通して、吸上げホースニップルに差し込み、ホースバンドでしっかり止めてください。ホースはフート弁が缶の底につく長さで止めてください。
2. 吐出ホースニップルにホース（19mm）を差し込み、ホースバンドで止めます。
3. 缶の種類に応じて、ブラケット 1 とブラケット 2、アダプターの位置を変えて液取り出し口に差し込み、ボルトで固定してください。
4. 給水栓から引いたホースを給水ボールバルブに接続してください。
5. 支柱等に取り付ける時は、ブラケット 1 を使い、ブラケット 2 は不要です。

[注意事項]

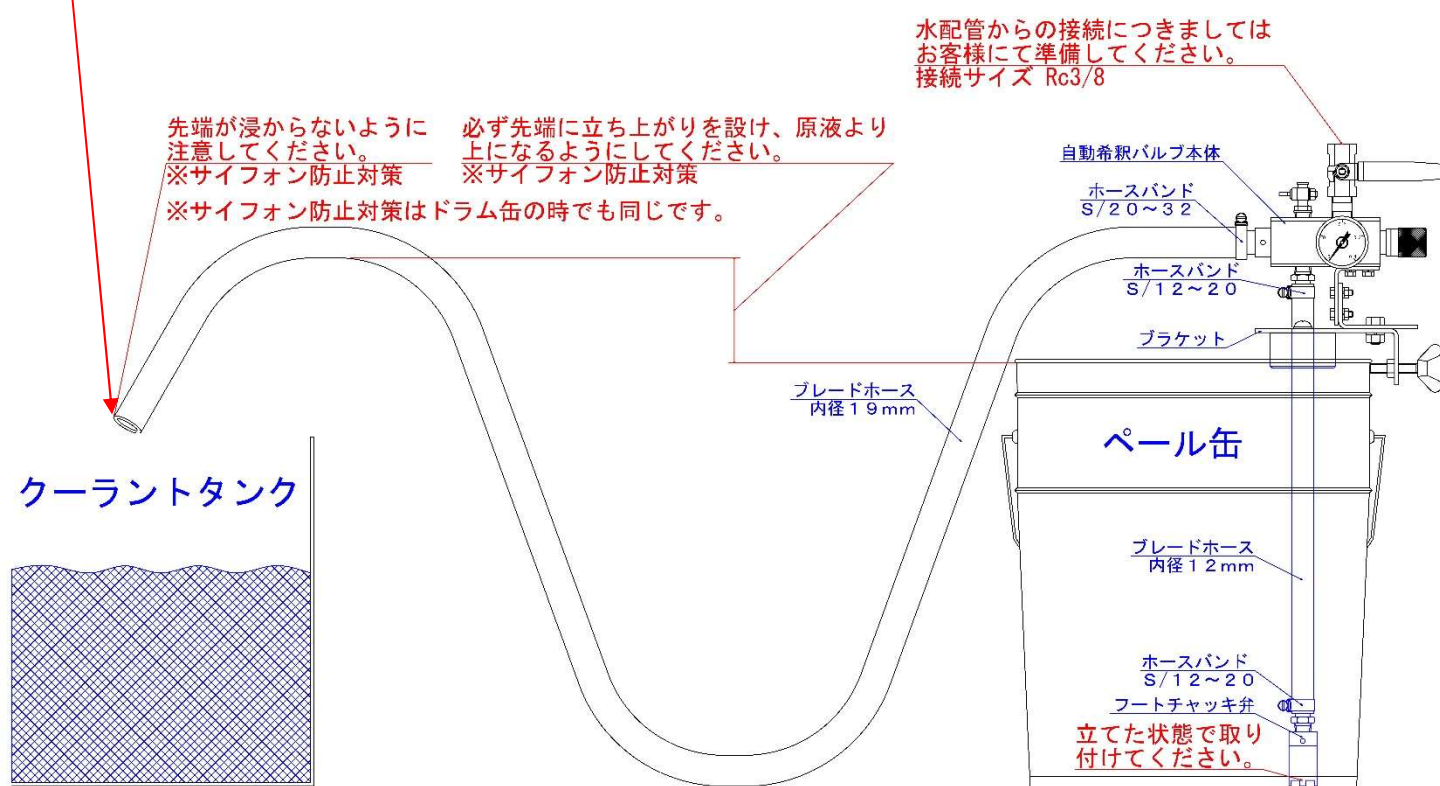
- ・ 供給圧力 0.1～0.2MPa の範囲内でご使用ください。
- ・ 上水道への直結は、法律で禁止されています。
- ・ ホース類は折れ曲がらないようにしてください。また、定期的に折れがないかチェックしてください。
- ・ 密閉タンクには使用しないでください。タンクが一杯になり逆流する可能性があります。
- ・ 希釈濃度につきましては、定期的にチェックすることをお勧めします。
- ・ 各ブレードホースは経年劣化しますので、定期的に交換することをお勧めします。
- ・ 注意事項に記載が無いような内容でも、一般常識の範囲内でお取り扱いください。

※上記の注意事項をお守りいただかないと、重大な被害を及ぼす場合があります。

取り付け参考図

- ペール缶に直接取り付ける際は、ブラケットが必要になります。ブラケットはオプションになります。
- 下記参考図にあります、ブレードホース、ホースバンドは付属品として同梱されていますのでそれをご使用ください。
- ホース類は折れ曲がらないようにセットしてください。
- 自動希釈バルブへ接続する水配管はお客様にてご準備ください。

※ホースの先端には、配管やコック等を付けずにそのまま使用してください。
ホースを延長したりしないでください。



* ペール缶と一斗缶の適合口金サイズは B40 のみとなります。

* 供給圧力 0.1~0.2MPa の範囲内でご使用ください。

操作のしかた

1. バキュームブレーカーが閉じていることを確認してください。
つまみが縦方向にて開、横方向にて閉となります。（外形図にある状態が閉となります。）
2. 給水バルブを全開にしてください。
3. 濃度調整グリップを左（反時計回転）に2～3回まわし開けます。
4. 供給圧力が0.1MPa以上で安定していることを確認し、その圧力値を設定圧として記録してください。

5. 濃度調整グリップの操作は、ゲージの数字が大きくなるほど、原液の吸上げ量は多くなります。

吐出ホースから出た液を濃度計で測定しながら適正な濃度になるようグリップを調整してください。一度調整するとそれ以後は、給水栓を開くだけで、適切な希釈液を作ることが出来ます。設定圧が変動すると濃度が変わりますので、供給圧力は一定になるようにしてください。また周囲の気温が大きく変動すると原液の粘度が変わり濃度が変わりますので、温度変化の大きい現場で使用する場合は、季節ごとに濃度を調整するようにしてください。

6. 作業者が吐出ホースを手にとって使用する場合は、使用後吐出ホース内の希釈液を空にし、吐出ホース先端を原液より高い位置に固定してください。

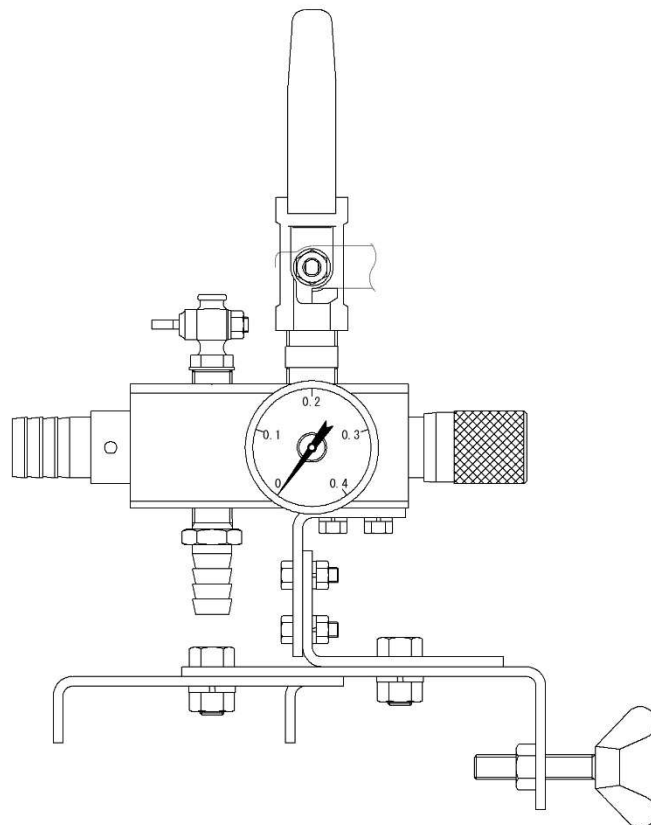
吐出ホースをクーラントタンクに固定して使用する場合は、吐出ホース先端が液面に浸からないようにし吐出ホース先端に立ち上がりを設けて使用してください。（P4 取り付け参考図参照）

原液の入った缶が高い位置にあって、作動を停止しても液が流れ出す場合は、バキュームブレーカーを開いて、原液の吸上げを停止させてください。また缶の位置を低いところに変更してください。

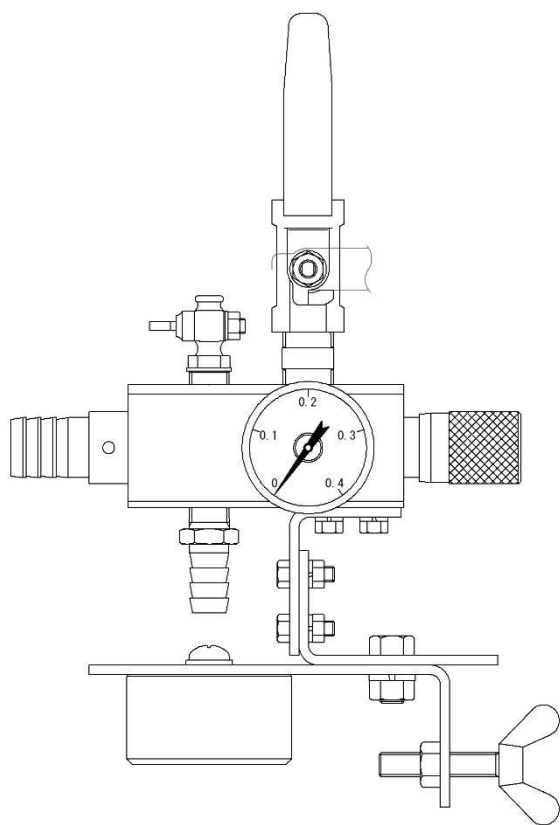
※出来る限り缶の位置は希釈バルブより低いところにしてください。（ADV2）

7. 万一、吐出側がつまった時は給水バルブを閉め、バキュームブレーカーを開いてから復旧してください。

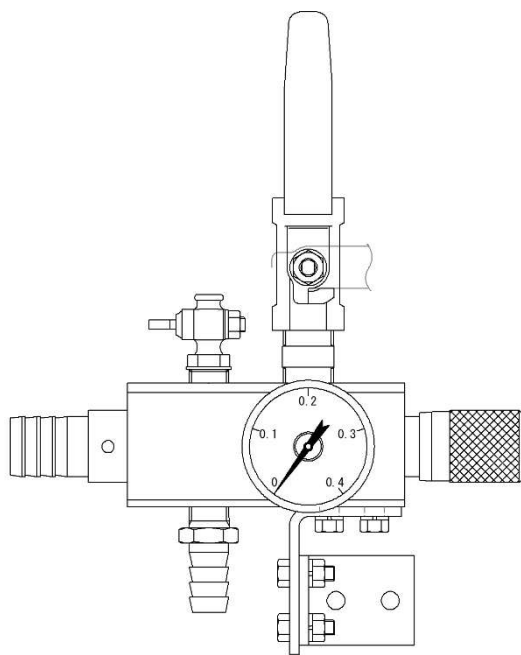
ブラケットの取り付けかた



ドラム缶仕様 KS-ADV2D



パール缶仕様 KS-ADV2S

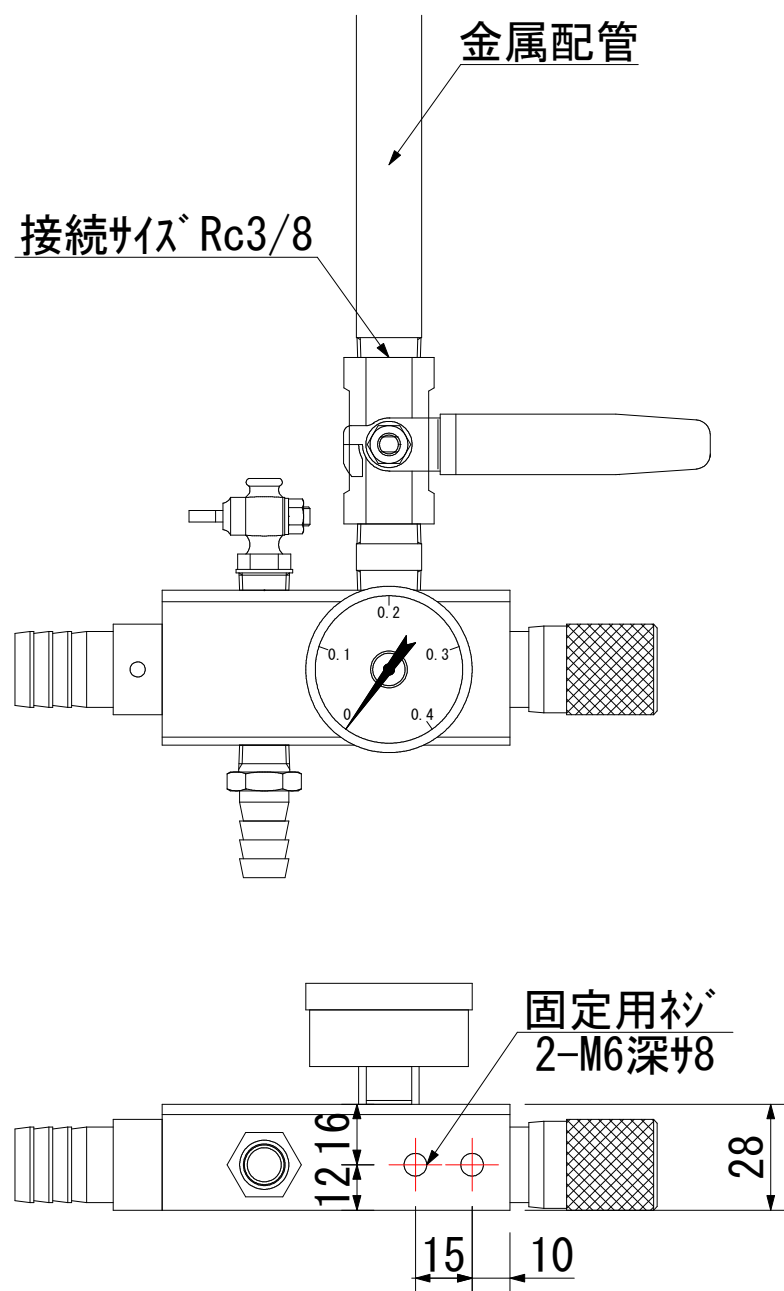


※ブラケットは付属されていません。
※ブラケット取付け参考図です。

支柱等 KS-ADV2

KS-ADV2 の取り付けかた

水配管に直接取り付けるか、固定用ネジ穴を利用して取付けてください。



トラブルシューティング

希釈がうまくいかない場合は以下の内容をご確認ください。

【不具合内容】

濃度調整グリップが回らない。

- ① 濃度調整グリップをきつく締めすぎていませんか？メモリ値0以下に回さないでください。
- ② 濃度調整グリップがどうしても回らない場合は、一旦吐出ホースニップル（外形図及び部品図参照）を反時計回りに少し回して濃度調整グリップを回してみてください。
- ③ 濃度調整グリップが回りましたら、吐出ホースニップルを時計回りに締め付けてください。

【不具合内容】

希釈できない。濃度調整グリップを開いても濃度があがらない。水が原液タンクに逆流する。バルブを閉じてても原液が希釈液タンクの方へ勝手に流れる。

- ① 吐出側のホースを延長したりバルブや配管をつけたりしていませんか？吐出側のホースはそのままの状態でご使用ください。
- ② バキュームブレーカが開いていませんか？コックが横になっている状態が閉じている状態です。
- ④ 通常希釈バルブを全開にした状態で放出側のホースからは18L/分の希釈液が出ますが、極端に量が少なくなっていないですか？本体内にゴミが詰まった場合、希釈液の出る量が減りメーターの値が通常より高くなります。
- ⑤ 吸上げホースを延長していませんか？吸上げホースが長くなるほど希釈能力が下がります。
- ⑥ 吸上げホースの先にあるフートチャッキ弁が詰まっていますか？フートチャッキ弁の先から覗くと金属の玉が見えます。細いドライバー等で玉を押し、球が動くことを確認してください。
- ⑦ 現場の気温が低くなっていませんか？気温が下がると原液の油の粘度が上がるため、吸い上げる量が少なくなっていくます。
- ⑧ 使用する原液の動粘度をご確認ください。動粘度が高い液だと希釈濃度が下がります。
使用する環境にもよりますが、動粘度 150 mm²/S で MAX 濃度が約 10%程度です。
- ⑨ 吐出側のホースの先が希釈液タンクの液面に浸かっていませんか？吐出側のホースの先が液面に浸からないようにしてください。